

告辞

穏やかな風が新芽の香りを運び、暖かい春の訪れが待ち遠しく感じられるこのよき日に、令和6年度の崇城大学大学院修了式・学位記授与式、ならびに卒業式・学位記授与式を挙行できますことは、教職員一同、喜びと感謝の念に堪えません。本日は、ご多用の中で、ご来賓ならびに保護者の皆さまにもご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。

まずは、工学、芸術、薬学、それぞれの大学院研究科を修了された皆さん。また、5学部の各卒業生の皆さん。本日の修了ならびに卒業、誠におめでとうございます。そして、これまで皆さんを温かく励まし、支えてこられた保護者の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。ご子息・ご息女の立派に成長した姿を間近にご覧になり、感慨もひとしおのことと存じます。

このたび、「博士」あるいは「修士」の学位を取得された大学院修了生の皆さん。コロナ禍の苦しい環境にあっても、最後まで諦めずにすばらしい研究成果を収められました。様々な課題を解決するために日夜研鑽を積み、その過程で新たな知を生み出し、高度な知識や専門性を身につけられたことは、修了生皆さんの逞しい成長のあかしです。本学にとりましても、この上なく誇りに思います。

また、栄えある「学士」の学位を取得された学部卒業生の皆さん。入学当初から新型コロナによるパンデミックに遭遇する中で、まさに艱難辛苦に直面しながら大学生活を過ごされました。入学後の前半は、不慣れな遠隔授業を強いられるだけでなく、楽しみにしていた大学でのクラブやサークル活動、交友関係、海外研修や留学、アルバイトまでも規制される状況が続き、学業のモチベーションを維持することが大変難しかったに違いありません。令和5年5月に新型コロナが5類感染症に移行されますと、ようやく大学生活の後半2年間は本来の学生生活を多少なりとも取り戻せたのではないのでしょうか。キャンパスライフのおよそ半分が遠隔と対面のハイブリッドな環境でしたが、卒業生の皆さんは逆境を乗り越えて、目標とする汎用的な社会人基礎力や専門力とともに、大切な人間力も身につけてくれたように思います。コロナ禍での様々な経験は、これからの長い人生を歩んで行く上で必ず役に立つはずです。学生生活での苦労を教訓にして就職や進学など、次の新たなステージで活躍されることを大いに期待しています。

今回の修了生と卒業生の中には、本学が推奨するグローバルな異文化交流に積極的に協力してくれた外国人留学生も数多くいます。日本語の習得、日常生活での習慣や価値観の違いなどに大変苦労したようですが、晴れて卒業を迎えられ、心より祝福したいと思います。将来にわたり、母国と日本との友好を育むような活躍を願っています。

ところで、国内では、与党が 30 年ぶりに過半数を大きく下回るといった政治変動が生じる中で、歴史的な円安や物価高が続いています。また、昨年が発生した能登半島地震や奥能登豪雨からの復旧の遅れは、依然として人びとの心を痛めています。このような地球規模の自然災害や近年の異常気象に加えて国外に目を転じますと、ロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、中東情勢も悪化するなど、国際情勢は不透明かつ混迷の度合いを増しています。その上、日本との同盟国であるアメリカの自国第一主義が台頭していることも世界秩序へのマイナスの影響が懸念されます。何れにしても、大地震などに見舞われた被災地や荒廃した戦場の様子がリアルに報道されるたびに、すでに約 9 年経過した熊本地震の時そうであったように、若い皆さんのアグレッシブなエネルギーやパワーが将来に向けた創造的復興への希望につながるものと思っています。

いま、人工知能 AI や、モノがインターネット経由で繋がる IoT の普及に伴い、Society5.0 のデジタルスマート社会が到来しようとしています。チャット GPT、AI による画像生成や音声合成、メタバース技術などは、急速にその用途が拡大しています。人びとの創造活動を模倣する生成 AI が既存の産業構造や社会の価値観をすでに大きく変えつつある現在、日本は明治維新と戦後に続く「3 番目の大改革時代」を迎えているとも言われます。実際に、アルテミス計画による有人宇宙旅行、あるいは輸送システムとして自動操縦の空飛ぶ車や超電導リニアなどが実用化される社会が目前に迫っています。また、熊本では、世界最大の半導体受託製造企業である台湾の TSMC 第 1 工場が本格稼働を開始しました。「産業のコメ」とも言われる半導体製造のすそ野は広く、TSMC の動向は国内産業の歴史的な社会変革を導くことになるでしょう。

このように、世界情勢の変化が激しく将来の予測が困難な近未来社会は、まさに若者の斬新でチャレンジングな活動を求めています。先ほど述べた先端技術のイノベーションにより新しい価値を創り出し、人類の平和で豊かな未来社会を築いていくには若い人びとの柔軟な総合知が必要です。そこで、修了生と卒業生の皆さんには、本学で培った実学教育やパイオニア精神のもと、グローバルな複合的視点に立って、新天地での様々な未知の問題に勇猛果敢に挑戦してほしいと思います。その際に、既存の組織や対人関係も大切にしながら自ら進んで課題を発見し、常に前向きな解決に心がけてください。これから社会人あるいは大学院生としての新生活が始まりますが、今後は同窓生の立場からも本学に対する温かい応援や励ましをお願いします。

ここで、激動の時代に船出する皆さんへの餞に、次のアドバイスを贈ります。それは、「人びととの出会いを糧にし、自分自身を生涯磨き続けること」です。人生には数多くの出会いや別れがある中で、大きな影響を与える人が必ず現れます。例え苦手に感じる人であっても、人生の反面教師となり人間的な成長をも

たらししてくれます。そのため、様々な人の話に耳を傾け、勇気をもって積極的にコミュニケーションをとってみてください。皆さんは、本学の学生生活において、掛け替えのない恩師あるいは友人にも巡り会えたことと思います。そのような人びととの出会いを通して得た一生ものの経験なども生かし、将来にわたってできる限り自身の個性的な資質を伸ばしてください。

スペインにあるサグラダ・ファミリア大聖堂の建築家として有名なアントニ・ガウディは、「オリジナリティーとは、オリジンに戻る」と述べています。独創性は自分だけの力で生み出せるものではなく、元々あるものをさらに磨き高めた結果として生まれます。これから皆さんの仕事や研究において、まずは先人の努力の集積をよく学び、そこから新しい発見や創造を導き出してほしいと思います。もし何かの壁にぶつかったときには、最初の思いなど、原点を冷静に振り返ってみることが大切です。さらに、日常の人びととの会話からも多様な考え方を知ること、例えば高い壁であっても乗り越えるヒントが必ず見つかるはず。皆さんが自分自身を磨き続け、斬新なアイデアにより地域社会の発展に貢献されるように期待しています。

最後になりますが、修了生と卒業生の皆さんは無限の可能性を秘めており、これからの活躍が大いに楽しみです。教職員一同、いつの日か皆さんに再会できることを切に願っています。今後、皆さんが心身ともに健康で、充実した幸せな日々を過ごされることを祈念し、告辞いたします。

令和7年3月20日
崇城大学学長 小野長門